Powered by マイナビニュース

(Japan)

Interview with Mr. Yamamoto, CEO of EVG Japan – December 9, 2021

装置メーカー各社は22年も当面はフル生産が続く（写真はラムリサーチのエッチング装置）

年以降の本格普及に備えを進める。国・南京、そしてタイといった22／23年の追加投資もトップ1つといえる。広いアプリケーションで用され、息の長く今後も着実な成長を見込めるため、TSMCは戦略的な投資を進めるとされるのが分野で不確実性が高いとされるのだ。同社は22年期決算で公表。自社製品向けのファブ拡張に加え、ファンドリー事業拡大に向けた計画について、280億ドルこ

(嘉興市)に約700㎡のデモルームを開設
機設置を希望するメーカー様を募集しております
半導体装置・資材 販売・サービス 中国向け半導体専門商社
国への拡販をアシスト!
気軽にご相談ください!
中国拠点：上海、嘉興、北京、武漢
吉永商事株式会社
06-6643-9996 info@yoshi.co.jp

いい。その他プロセス装置においても、22年の投資案件の中心となる7nm（Intel 4）向けの引き合いや受注もまだまだ力強さに欠ける状況といわれている。

インテルという不確定要素はあるものの、全体的にションの影響を受けて、供給量が激減。一部では価格が非常に高騰しており、大きな問題として浮上している。また、物流インフラの混乱も依然リスクとして残る。コロナ禍が続く中で、航空貨物便が減少しており、装置出荷におけるボトルネックとなっている。

先端ロジックやメモリーに限らず、レガシーノードやパワー半導体、イメージセンサー、アナログなどの領域も設備投資は活況だ。これらが下支えとなって、22年も基本的には良好な市場環境が続きそうだ。

インタビュー

EVGジャパン

山本代表に聞く

イーヴィグループジャパン（EVGジャパン、横浜市保土ヶ谷区）は、ウエハーボンダーを主力にナノインプリントリソグラフィー（NIL）などを展開する、オーストリア本社の製造装置メーカー。2021年はコロナ禍でありながらも、顧客からの旺盛な引き合い・受注を獲得し、引き続き業績を伸ばすことができた。とりわけ今後はウエハー接合分野のさらなる拡大が見込めそうだ。日本法人代表を務める山本宏氏に現況および今後の事業計画を伺った。

11面に続く

●産業タイムズ社

『工場ハンドブック』発刊

㈱産業タイムズ社は、『半導体工場ハンドブック2022』を発刊した。A4変形判160ページで、価各税1万1000円（税

同書は、半導体業界で活躍される方々の必携書として、発刊から25年を超えるロングセラー。業界の最新動向や主要アイテムの市場

レンドまでを網羅する。半導体製造装置・材料メーカーの動向も紹介している。

今回は、巻頭特集としてカーボンニュートラルをテーマに、各社の脱炭素化に向けた取り組みを紹介した。さらに、半導体不足などから生産調整が続く自動車メーカーの家動状況を紹

記者の眼

取材先や情報交換相手の日本企業から「中国で新事業開発のマーケティングをしている」という話を聞くことが増えた。上海にそのための駐在員を送り込んでいる日本企業も増えている。中国は市場規模が大きく新しいものを取り入れようとする機運が高いから、すでに成熟して複雑なしがらみに縛られた日本よりもチャンスが多そうだ。ヒットすれば巨大市場を手にする可能性もある▼日本企業の多くは、新技術そのものの開発は難しいが、自社の既存技術を別の分野で応用できないか探ろうとしている。しかし、どちらにせよ道なき道に分け入る時に困難が付き物なのに違いはない。それでは、中国企業はどうしているのだろうか。中国企業は自分でその答えを考え出すよりも、手っ取り早く「異業種参入」してしまっているように思う▼最近では、スマホのシャオミーによるEV設計計画やエアコンのグリ

SCREEN
Advanced Wafer Cleanin